



## スタジアムで楽しむ 新時代のスポーツ

～京都スタジアム杯  
eスポーツ選手権～

2024年のパリオリンピックの新種目として採用が検討されている「eスポーツ」。コンピューターゲームを使ったスポーツ競技で、競技人口は世界で約1億人以上といわれ、注目を集めています。

このほど、サンガスタジアム by KYOCERA 東側4階に「VR・eスポーツエリア」がオープン。3月28日にオープンイベント「京都スタジアム杯eスポーツ選手権」が開催されました。

競技種目は、バトルカーと呼ばれる車を操作し、3対3で対戦するサッカーゲーム「ロケットリーグ」です。予選を勝ち抜いた高校生から一般までのチームによる激

闘が繰り広げられました。

決勝戦では、進出した両チームが一步も譲らない試合展開で延長戦に突入。手に汗握るすばらしい対戦を制したのは、福島県から参加した「BlasT」でした。

eスポーツは、世代を越えて楽しむことができる新たな形のスポーツです。

サンガスタジアム by KYOCERAでは、eスポーツをはじめ、非日常空間でカラダを動かせる「VRフィットネス」などが体験できます。



## 人と人がつながる新たな拠点 「開かれたアトリエ」オープン

4月14日、本市のSDGs推進の拠点として、市役所地下1階に「開かれたアトリエ」がオープンしました。

これは、本市が昨年、内閣府からSDGs未来都市に選定されたことにより交付された補助金を活用して、これまで利用度が低かったレストランを改修したものです。

ワークショップに参加した市民の意見をもとに、本市と協定を締結している京都芸術大学と学生、かめおか霧の芸術祭に関わるア



ティストと協働で整備しました。

どなたでも好きな席に座って読書や仕事、お茶など自由に過ごすことのできるスペースです。今後、トークイベントやワークショップ、展覧会など年間を通じて開催し、さまざまな知恵や技術が共

有できる場を創出します。レストラン機能も、循環する社会“をキーワードに一新され、プラゴミゼロ・フードロス低減・地産地消などに配慮した取り組みが行われます。

飲食しない人も自由に利用できるので、ぜひ活用してください。

**開かれたアトリエ**

利用時間 午前9時～午後5時  
(土・日曜日・祝休日を含む、年末年始を除く)  
座席数 100席(無料Wi-Fi完備)

図書コーナー/キッズ・くつろぎコーナー  
資源循環コーナー  
情報発信収集コーナー など  
カフェ

(午前10時～午後5時、土・日曜日・祝休日休み)

問 文化国際課 ☎55-9655

## 「世界に誇れる環境先進都市亀岡市」をPR

民間企業からの支援  
(あいおいニッセイ同和損保(株)からの寄贈)

亀岡市では、「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」や亀岡市ポイ捨て等禁止条例の施行、給水スポットの設置など環境への取り組みを周知するため、順次、市内各所にサイン(広告や看板など)を設置しています。

今年1月からは、京阪京都交通バスの協力ののもと、プラスチック製レジ袋提供禁止に関するラッピングバスを、亀岡市から京都駅までの区間で運行しています。

また3月には、あいおいニッセイ同和損保(株)より、地域・社会貢献活動の一つとしてプラゴミゼロ宣言などを広報する横断幕とステッカーを寄贈いただき、横断幕は京都縦貫自動車道上

例の施行、給水スポットの設置など環境への取り組みを周知するため、順次、市内各所にサイン(広告や看板など)を設置しています。

今年1月からは、京阪京都交通バスの協力ののもと、プラスチック製レジ袋提供禁止に関するラッピングバスを、亀岡市から京都駅までの区間で運行しています。

また3月には、あいおいニッセイ同和損保(株)より、地域・社会貢献活動の一つとしてプラゴミゼロ宣言などを広報する横断幕とステッカーを寄贈いただき、横断幕は京都縦貫自動車道上

の橋(南つつじヶ丘など)に、ステッカーは市内のバス停留所に掲出しています。

このほか、市庁舎においても、正面玄関やエレベーターの扉に環境ロゴマークを貼るなど、職員の意識共有や来庁者への周知につなげています。

サイン表示を通じ、環境への意識が市内外に広がっていくことが期待されます。



**第四百二十九  
畿内文化のハブ かめおか  
文化財めぐり**

現在、亀岡市は年齢・性別・国籍にとらわれず活躍でき、自然や文化を含めた多様性を尊重する「多文化共生」のまちづくりを進めています。

一方で、歴史的にみても亀岡市域は多様な文化が交流し、大都市の京都や畿内の各地域を結ぶハブとしての性格をもつ場所でした。令和3年度からの文化財めぐりでは、この「畿内文化のハブ かめおか」の魅力を紹介していきます。

さて、亀岡市域の「ハブ」としての性格を語る上で欠かせないのが、丹波亀山城です。

明智光秀が、すでに存在していた八木城や神尾山城ではなく、あえて亀山の地に拠点を置いたのは、その立地に注目したためと考えられます。

亀山は、山陰道が通る要地であることに加え、奥丹波へ続く篠山街道、丹後若狭方面へ通じる丹後道など主要街道が交差し、丹波道など主要街道が交差し、秀にあって魅力的な地でした。また、戦国時代には保津川の支流が亀山周辺を流れており、木材の流通にも便利な所でした。光秀は、こうした理由から亀山を城地に選んだと言えるのです。

その重要性を見出された亀山は、その後羽柴秀勝や岡部長盛らに受け継がれ、丹波国を代表する城下町として発展していくこととなります。

▲現在の亀山城跡のようす

**亀岡市公式動画チャンネル**

動画を通じ、市の魅力に触れてもらおうとYouTube上に公式チャンネルを開設しています。  
ぜひチャンネル登録を!

<https://www.youtube.com/c/亀岡市公式動画チャンネル>